

「鳥インフルエンザの人類学的研究」

日時： 2008年12月4日(木) 16:30~19:00 (16:00開場)

場所： 立命館大学衣笠キャンパス 学而館第2研究会室

キャンパスアクセス URL : http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/koho/annai/profile/access/kinu_1.html

プログラム：

講師：フレデリック・ケック (Keck, Frédéric) 教授

香港は鳥インフルエンザ流行に備えた対策をとっています。広東省当局はそのウイルスが人間にも伝染するものに変異することを恐れ、感染が確認された全ての養鶏を注意深く検査しています。2003年のSARS(重症急性呼吸器症候群)の経験以降、公衆衛生動員体制、つまりすべての研究所、病院、警察、そして飛行機会社が有事の際には動員されるようになっています。しかし、香港はまた、鳥インフルエンザも経験しており、今日、世界的脅威と考えられている高病原性トリインフルエンザA(H5N1)型が1997年に出現してからは、多くの養鶏の処分、養鶏市場の閉鎖、養鶏事業の再編が行われています。

本報告ではこれら2つの危機の相互関係(前者は著しく人間に影響を与え、後者はしつこく動物に影響を与えている)を考察します。それとともに、情報共有および必要な衛生設備の質に関する相互不信を基にした香港と広東省の間の関係再構築の試みにもふれたいと思います。

* 講演は英語で行われますが通訳の対応はありません

フレデリック・ケック (Keck, Frédéric) 氏：フランス国立研究センター教授、構造人類学を現代世界の解明に適用し、感染症のカタストロフィーの人類学を追求する。『レヴィ＝ストロースひとつの序論』『レヴィ＝ストロースと野生の思考』(いずれも未邦訳)等、2008年5月に刊行されたプレヤード版レヴィ＝ストロース著作集の編集者のひとり。

主催： 立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点

立命館大学生存学研究センター

共催： 立命館大学大学院先端総合学術研究科

お問合せ先： 生存学研究センター事務局

TEL: 075-466-3335 (9:00~17:30) FAX: 075-465-8371

入場無料です。

会場収容能力により入場を制限する場合がございます。

駐車場がありませんので、公共交通機関でお越し下さい。